

# はにい

## 道徳の輪

平成25年12月6日

6年生の道徳の時間です。

読み物資料をもとに、「主人公はどうすべきだったか」について、対話しています。

黒板には、クラス全員の似顔絵カードが左右に分けて貼ってあります。左は、この話の主人公は先生に本当のことを「言うべき」だと思う人。右は「言わないべき」だと思う人です。



子ども同士の対話で話が深まっています。

「さっきから、みんな、嘘ついたら変な気持ちになるって言ってるけど、ここで義男君が本当のことを言ったら、今、勝ったと思って喜んでた3組が逆に変な気持ちになっちゃうと思う。」

「『逆に』というのはどういうこと？」

子どもの表情を見ながら、教師が質問します。

子どもたちが手に持っているのは、『成長ノート』。クラスで話し合ったことや、道徳の時間で考えたことが記録してあります。

学級での毎日の生活が大事にされています。



「自分しか知らないっていうことは、黙っていていいという理由にはならないと思う。」

「でも、黙っていることは『友情』だから、『友情』は大事だと思う。」

「いや、それは『友情』っていうことを間違えてると思います。」

ここで教師が輪の中に入りました。

「そうか、では、近くの人と相談タイムにしよう。」

考えの輪が広がり、言葉の輪が広がる。

教師は、子どもたちの対話を見守りながらその輪をまわって聞いています。

立ち止まってはうなづき、歩んでは考え、また立ち止まっては天井を仰ぎ・・・。